

## 【実施体制】

実施組織の再編と男女共同参画推進室(以下、「推進室」)の拡大により、実施体制の基盤強化を図る。

- (1) 最終目標である女性教員の増加(特に工学系)と上位職登用に関しては、人事案件を掌握、推進、実行する組織として、学長をトップとし、理事、部局長、学長特別補佐を構成員とする「男女共同参画推進会議」を新設、女性教員の採用・登用に関する案件を検討・推進する体制を整備する。
- (2) 推進室は、上記の「男女共同参画推進会議」に直属させる形で位置づけ、推進室の拡大・機能強化を図る。専従スタッフ(コーディネーター等)を配置し、下記の諸活動を、実施のみならず、企画・立案まで含め、能動的に活動させ、必要な場合には、「男女共同参画推進会議」への提言も行わせる。

## 【特長】

### 1. 学長リーダーシップのもと、直属組織が対応

学長リーダーシップのもと、学長直属組織として、女性教員採用・登用をめぐる人事管理、女性教員支援策の立案、実施について、スピーディに対応する。

### 2. 実施体制の再編と基盤強化による対応力強化

「男女共同参画推進会議」を新設し、実施体制の再編を行う。「男女共同参画推進会議」と「男女共同参画推進室」との掌握事項を明確に分化し、女性教員に関する人事管理については前者で、女性教員のニーズ把握、研究環境整備等の支援策の展開については後者で対応し、組織体制の整備・強化を行う。

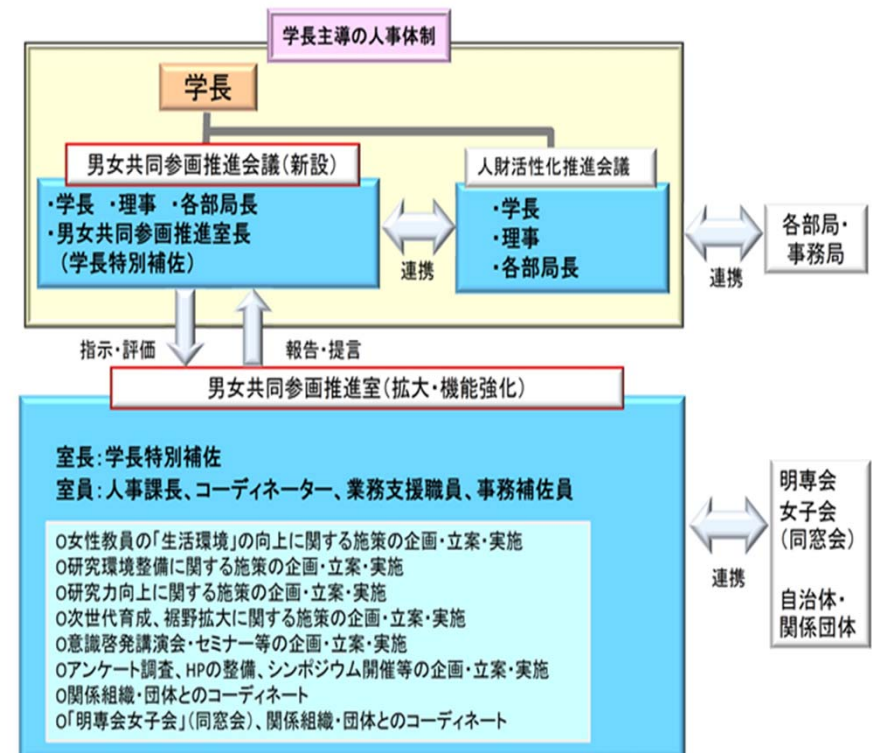
### 3. 機動性に優れたスピーディで的確な対応

女性教員へのヒアリングにより個別ニーズをきめ細かく把握するとともに、他方、全体的なニーズ把握のためには職員アンケートを実施し、両者の結果をマッチングさせながら、優先度の高い要望から、的確に、かつスピーディに対応していくことで、女性教員の研究力強化を目指す。

### 4. 同窓会組織(明専会女子会)との強力な連携

同窓会組織の女子組織(明専会女子会)との連携を強化し、「明専女子塾」へのいっそうの協力、「明専女子キャリア・ネットワーク」構築などを進めることで、次世代育成をさらに推進する。

## 【体制の概要】



## 【取組概要(目標)】

実施体制の整備のもと、以下の取組を進める。

### 1. 女性教員の「生活環境」の向上

- ・女性教員へのヒアリングを行い、個別ニーズに応じた「包括的支援サービス」を提供することにより、女性教員の生活環境の安定・向上を目指す。
- ・また、アンケート調査を実施し、全体的なニーズを的確に把握、優先度の高い施策から対応していく。
- ・これらにより、女性教員の「生活環境」の安定・向上を目指す。

### 2. 研究環境整備

- ・研究支援員の配置、保育サービス支援を進める。
- ・「Ms.Kyutech-Network」(本学女性教員・院生等のネットワーク)、「明専女子キャリア・ネットワーク」(本学同窓会組織である「明専会」の女子会との連携によるネットワーク)、「明専女子キャリア・バンク」(卒業生のデータベース登録)の構築を進め、卒業生の研究者との研究情報交流、院生・卒業生の研究支援員としての活用等を目指す。

### 3. 研究力向上

- ・女性研究リーダーの育成策として、女性研究リーダー育成セミナー、科研費セミナー等を開催、また、英語論文作成補助もを行い、研究力向上を推進する。

### 4. 次世代育成

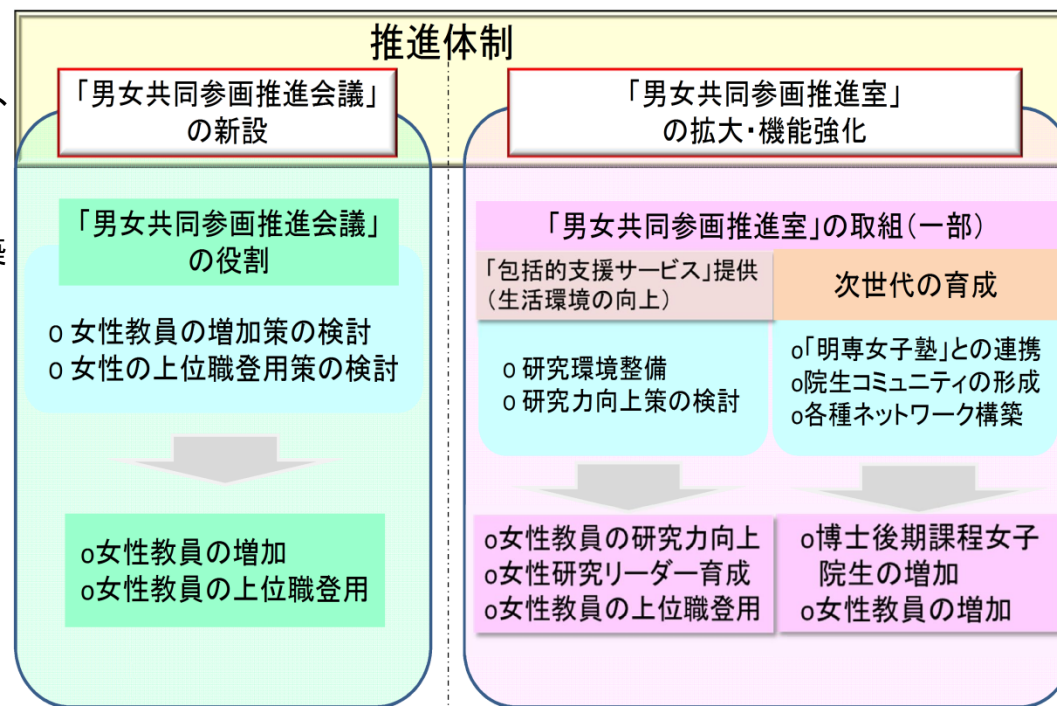
- ・Ms.Kyutech-Networkの構築、明専女子キャリア・ネットワークの構築、明専女子キャリア・バンクの構築を構築する(再掲)。
- ・院生コミュニティの形成、ミーティング・シンポジウムの開催、ロールモデル集の作成を目指す。
- ・特に明専会女子会とは、女子学生対象セミナー「明専女子塾」(明専女子会主催)へのいっそうの協力を通して、女子学生の大学院進学に向けての推進を目指す。

### 5. 執行部・教員を対象とした意識啓発活動

- ・トップセミナー開催、教員対象の意識啓発講演会を開催する。

### 6. 学内外への活動の周知

- ・シンポジウム等を開催し、本学の取組を広く紹介するとともに、HPを整備、報告書を作成して、学外への発信力をいっそう強化する。



## 【支援内容】

- ・女性研究者へのヒアリングによる個別ニーズの把握、ニーズに応じた「包括的支援サービス」の提供
- ・研究支援（研究支援員の配置、英語論文校閲補助等）
- ・保育サービス支援（土日入試時の臨時保育の実施、夏期学童保育（一部では「プログラミング教室」実施）、時間外保育等への補助等）
- ・次世代育成支援（シンポジウム・ミーティングの開催、院生コミュニティ、ネットワーク構築、「明専女子塾」（明専会女子会主催）への協力等）

## 【広報関係】

### ・女性教員への個別ヒアリングの実施とニーズ把握

女性教員へ個別にヒアリングを行うことにより、個別事情・ニーズを把握し、適切なサービスの提供、施策の展開に務めた。

### ・「在宅勤務制度」の制定

制定直後（H29年2月）から、4人の女性教員が利用（H29年9月からは5人利用）、国立大学では活用度が最も高い。このような高い活用度が生まれた背景は、ヒアリングやアンケート等によりニーズを把握し、それに的確に対応した結果によると思われる。また、利用者と学長との懇談会や利用者アンケートも実施し、ニーズに応じて改定も行っている。マスコミからの取材も多く（新聞3紙、NHK北九州）、学外においても注目されている。

### ・土日入試業務遂行困難者への対応

土日入試業務遂行に関しては、入試課・人事課と連携して、まず全職員に実態調査を実施、事務職員も含め遂行困難者を把握した。

土日入試業務遂行困難者と認められた、3歳未満の幼児や障がい児、要介護者がいる職員については業務を免除しているが、このような取組を実施している機関は少ないと思われる。土日入試業務遂行の困難については、女性研究者への個別ヒアリングにおいて把握された課題であり、入試課等の他の部門とも連携しながらスピーディに対応した事例と考えている。

### ・ニーズの的確な把握とスピーディな対応

上記の取組に共通する姿勢として、ヒアリングやアンケート調査によってニーズを的確に把握し、要望の高い施策に、スピード感を持って重点的に取り組んでいる点を指摘できる。



（安河内学長特別補佐インタビューの様子）

## 【お問合せ】

機関名：国立大学法人 九州工業大学 男女共同参画推進室

所在地：〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1

連絡先：(TEL) 093-884-3212 (E-mail) danjo-sankaku@jimu.kyutech.ac.jp

HP： <http://www.kyutech.ac.jp/information/gender.html>